

## 論文の要旨

論文題目 「主体の意図にかかわる副詞(的機能を持つ表現)」の  
意味研究  
氏名 李 澤熊  
学位 博士(文学)  
授与年月日 平成 15 年 3 月 25 日

本研究の目的は、現代日本語の副詞(的機能を持つ表現)の中で、主体の意図にかかわる語の個別の意味と相互の意味の類似点・相違点を明確に記述することであった。考察の対象とした語は以下の 22 語である。

非意図的であることを表す語(16 語)：うかつにも、うかつに、うかうか(と)、うっかり(と)、つい、思わず、無意識に、我知らず(に)、知らず知らず(に)、いつの間にか、いつしか、ふと(ふっと)、何気なく、何となく、何だか、どことなく

意図的であることを表す語(6 語)：さり気なく、それとなく、敢えて、強いて、無理に、無理矢理(に)

この目的に向けて第 2 章では、本稿で考察する語が主に副詞であることから、副詞に関する先行研究を整理・検討し、副詞の定義・分類を行った。考察にあたっては、「プロトタイプに基づくカテゴリー化」理論を取り入れた。この理論に基づいて、「副詞というカテゴリーの成員は、その成員らしさという点では一様ではなく、中にはプロトタイプに近いものもあれば、それとはかけ離れた周辺のなものがあったり、成員間で段階性がみられることになる。また、他の品詞との関係、つまり複数のカテゴリー間における境界は連続的かつ曖昧である」ということを認めた。

この考え方に基づき、以下のように副詞を定義・分類した。

副詞：副詞とは、一般的にそのままの形で(用言のように活用せず)、主語とならず、主として動詞や形容詞を修飾する働きをする語を言う。

- 1) 情態副詞：動作、作用、または事態のあり方を表し、主として動詞を修飾する副詞である。
- 2) 程度副詞：一般的に状態性の意味を持つ語にかかって、その程度を限定する副詞である。
- 3) 陳述副詞：主に否定・推量・仮定など、述語の陳述的な意味を補足強調し明確化する語

で、一般的に話者の心的態度を表す副詞である。

次に第 3 章では、本稿で考察する語の副詞における位置づけに関する先行研究を整理・検討し、第 2 章で行った副詞の分類に基づき、副詞における位置づけを検討した。その結果、研究者によって位置づけが異なり、しかもその位置づけが十分明確なものとは言えず、本稿で考察する語の位置づけを明確にするのは大変困難であることがわかった。

そのような状況を踏まえて、本稿では、考察対象とする語が「情態副詞」と「陳述副詞」の両方の性質を持ちつつ、語によってその一方の性質をより強く持つという連続的な性質を認める立場をとった。つまり、ここでも「プロトタイプに基づくカテゴリー化」という立場をとった。

さらに第 4 章では、本稿で考察する語のより詳細な分析を行う前提として、下位分類を提示した。その結果、以下のように 6 つのグループを認めた。

#### 「A グループ」

A グループ：つい、うっかり(と)、うかうか(と)、うかつに、うかつにも

A グループ：思わず、無意識に、我知らず(に)、知らず知らず(に)

A 'グループ：いつの間にか、いつしか

A グループ：ふと(ふっと)、何気なく、何となく、何だか、それとなく( )、どことなく

#### 「B グループ」

B グループ：さり気なく、それとなく( )、敢えて

B グループ：強いて、無理に、無理矢理(に)

また、下位分類した各グループ間は「つい、思わず、ふと(ふっと)、知らず知らず(に)、いつの間にか、何気なく、何となく、強いて」によって、連続的につながっていることを指摘した。さらに、A グループと A 'グループ及び A グループに属するいくつかの語を取りあげ、各語間も互いに何らかの関連性を持ちながら連続的につながっているということも指摘した。

次に第 5 章から第 9 章にかけては、第 4 章で提示した下位分類に基づき、各語の意味分析を行った。

まず第 5 章では、各グループの境界に位置づけられていると考えられる 5 語(思わず、つい、ふと(ふっと)、何気なく、さり気なく)を取りあげ、各語の個別の意味と相互の意味の類似点・相違点を明らかにし、各グループが連続的につながっていることを再度確認した。

次に第 6 章では、A グループに属する 5 語(つい、うっかり(と)、うかうか(と)、うかつに、うかつにも)を取りあげ、各語の個別の意味と相互の意味の類似点・相違点を

明らかにした。

続いて第7章では、A グループとA'グループに属する6語(思わず、無意識に、我知らず(に)、知らず知らず(に)、いつの間にか、いつしか)を取りあげ、各語の個別の意味と相互の意味の類似点・相違点について検討した。

第8章では、A グループに属する5語(何となく、何だか、何気なく、それとなく( )、どことなく)を取りあげ、各語の個別の意味と相互の意味の類似点・相違点を明らかにした。

最後に第9章では、B グループとB'グループに属する6語(さり気なく、それとなく( )、敢えて、強いて、無理に、無理矢理(に))を取りあげ、各語の個別の意味と相互の意味の類似点・相違点を明らかにした。

第10章では、第4章から第9章にかけて考察した結果を踏まえて、考察対象とする語が「情態副詞」と「陳述副詞」の両方の性質を持ちつつ、語によってその一方の性質をより強く持つという連続的な性質について再確認した。

最後に第11章では、本稿のまとめを行い、今後の課題について述べた。